

## 第 4 問

【解答】

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	材 料	3,230,000	本 社	3,230,000
(2)	仕 掛 品	2,376,000	材 料	2,376,000
(3)	仕 掛 品	4,480,000	賃 金	5,960,000
	製 造 間 接 費	1,480,000		
(4)	製 造 間 接 費	100,000	本 社	100,000
(5)	製 造 間 接 費	50,000	原 価 差 異	50,000

【解説】

工場会計の独立に関する仕訳では、本社と工場にそれぞれ設定されている勘定について、確認することが大切である。

新版日商簿記テキスト工業簿記 p.228～p.233 参照

(1) 材料の購入（倉庫に搬入）に関する仕訳

材料の購入金額 3,230,000 円（8,000 kg×400 円/kg+30,000 円）を材料勘定の借方に記入する。

支払関係は本社で行っているため、貸方の勘定科目は「本社」とする。

(2) 材料の消費に関する仕訳

素材の消費（直接材料費）は、仕掛品勘定の借方に記入する。金額は総平均法により、次のように計算する。

$$\text{素材消費額} = \frac{2,000 \text{ kg} \times 380 \text{ 円} + 8,000 \text{ kg} \times 400 \text{ 円}}{2,000 \text{ kg} + 8,000 \text{ kg}} \times 6,000 \text{ kg} = 2,376,000 \text{ 円}$$

新版日商簿記テキスト工業簿記 p.38～p.40 参照

(3) 賃金の消費に関する仕訳

賃金のうち、直接工の直接作業時間分（直接労務費）は仕掛品勘定、間接工の消費賃金（間接労務費）は

製造間接費勘定のそれぞれ借方に記入する。金額は、次のように計算する。

直接労務費：3,200 時間×1,400 円=4,480,000 円

間接労務費：1,500,000 円 - 120,000 円 + 100,000 円 = 1,480,000 円  
支払高 前月末払高 当月未払高

新版日商簿記テキスト工業簿記 p.52～p.55 参照

(4) 間接経費の計上に関する仕訳

間接経費の計上額は、製造間接費勘定の借方に記入する。

支払関係は本社で行っているため、貸方の勘定科目は「本社」とする。

(5) 製造間接費配賦差異の振替に関する仕訳

予定配賦額 3,520,000 円と実際発生額 3,470,000 円の差額 50,000 円（貸方差異）を、製造間接費勘定の借方と原価差異勘定の貸方に記入する。

ポイント 予定(配賦)額 > 実際(配賦)額 → 有利差異（貸方差異）

新版日商簿記テキスト工業簿記 p.83～p.84 参照

## 第 5 問

【解答】

仕 掛 品	
月 初 有 高 ( 540,000 )	当 月 完 成 高 ( 2,400,000 )
直 接 材 料 費 ( 1,817,000 )	月 末 有 高 ( 490,000 )
加 工 費 ( 594,000 )	標 準 原 価 差 異 ( 61,000 )
( 2,951,000 )	( 2,951,000 )

### 月次損益計算書 (一部)

(単位 : 円)

I 売 上 高	( 7,440,000 )	
II 売 上 原 価		
月初製品棚卸高	( 240,000 )	
当月製品製造原価	( 2,400,000 )	
合 計	( 2,640,000 )	
月末製品棚卸高	( 160,000 )	
差 引	( 2,480,000 )	
標準原価差異	( 61,000 )	( 2,541,000 )
売 上 総 利 益	( 4,899,000 )	
III 販売費及び一般管理費	( 3,759,000 )	
営 業 利 益	( 1,140,000 )	

【解説】

① 仕掛品勘定の記入

パーシャル・プランでは、仕掛品勘定の借方は実際原価（ただし、月初仕掛品原価は標準原価）、貸方は標準原価で記入する。なお、次の計算の数量関係は、以下のボックス図を参照のこと。

月初有高 :  $1,500 \text{ 個} \times 300 \text{ 円} + 900 \text{ 個} \times 100 \text{ 円} = 540,000 \text{ 円}$

直接材料費 : 当月の原価実績 (実際額)

加工費 : 当月の原価実績 (実際額)

当月完成高 :  $6,000 \text{ 個} \times 400 \text{ 円} = 2,400,000 \text{ 円}$

月末有高 :  $1,400 \text{ 個} \times 300 \text{ 円} + 700 \text{ 個} \times 100 \text{ 円} = 490,000 \text{ 円}$

標準原価差異 : 仕掛品勘定の貸借差額として計算できる。

もしくは、

$$\frac{5,900 \text{ 個} \times 300 \text{ 円} + 5,800 \text{ 個} \times 100 \text{ 円}}{\text{標準直接材料費} \quad \text{標準加工費}} - \frac{(1,817,000 \text{ 円} + 594,000 \text{ 円})}{\text{実際直接材料費} \quad \text{実際加工費}} = -61,000 \text{ 円 (借方)}$$

直接材料費		加工費	
月初 1,500 個		月初 900 個 <sup>1)</sup>	
当月着手 5,900 個	完成品 6,000 個	当月投入 5,800 個	完成品 6,000 個
	月末 1,400 個		月末 700 個 <sup>2)</sup>

1) 1,500×0.6      2) 1,400×0.5

② 損益計算書の作成

標準原価計算を採用している場合、月初製品棚卸高、当月製品製造原価および月末製品棚卸高は標準原価で記入する。

売上高：6,200 個（販売品）×1,200 円＝7,440,000 円

月初製品棚卸高：600 個×400 円＝240,000 円

当月製品製造原価：6,000 個×400 円＝2,400,000 円

月末製品棚卸高：400 個×400 円＝160,000 円

標準原価差異：仕掛品勘定に記入されている原価差異の金額（61,000 円）を記入し、借方（不利）差異であるため売上原価に加算する。

販売費及び一般管理費：2,540,000 円＋526,000 円＋388,000 円＋305,000 円＝3,759,000 円

新版日商簿記テキスト工業簿記 p.201～p.205 参照